



生き続ける土地の記憶

- 日本酒造りの再興と街の記憶のアーカイヴ -

土地の記憶を色濃く写す日本酒と、日本酒造りで地域に愛された「国暉酒蔵」。
 新事業ウイスキー造りと共に、日本酒造りを再興し、
 同時に酒蔵のリノベーションによって、まちの記憶をアーカイヴする資料館を設計する。
 まちの記憶をまとった本建築は、地域商店街との関係の核となり、
 次第にその関係性の輪は波及していく。



「日本酒」と土地の記憶 松江の記憶：対象敷地 末次本町「国暉酒蔵」 記憶の器 (RESEARCH) 提案 (PROPOSAL) 設計 (PROGRAM & ZONING)

材料

米・水・酵母

技

出雲杜氏 松江琴行列

松江市民の心象風景

<昭和20年代>

国暉酒蔵 変遷

<江戸> 廻船問屋・藍染業・水産業
 <明治> 松江藩より蔵を譲り受け、酒造業へ
 <昭和> 戦後GHQより業務停止令その後15の酒造が国暉に統合
 <令和> 酒蔵は廃業の危機に面し、2020年ウイスキー会社が買収

1. 様々な構造体・壁面

木造構造体 土蔵と鉄骨蔵の融合

2. 用途を失った遺産

煙突 井戸

トップライト 酒造りタンク

Archive 過去から現在の融合
Layer 日本酒とウイスキーの融合
Creation 生業と地域生活の融合

現在の酒蔵（町家の住戸配置）

道に接する壁面でまちと繋がる

本設計

減築操作

まちの生活を蔵内部の生業空間へ引き込む

■ 日本酒造り ■ 新事業：ウイスキー造り ■ 街の資料館・GA → Museum としてまちに開く

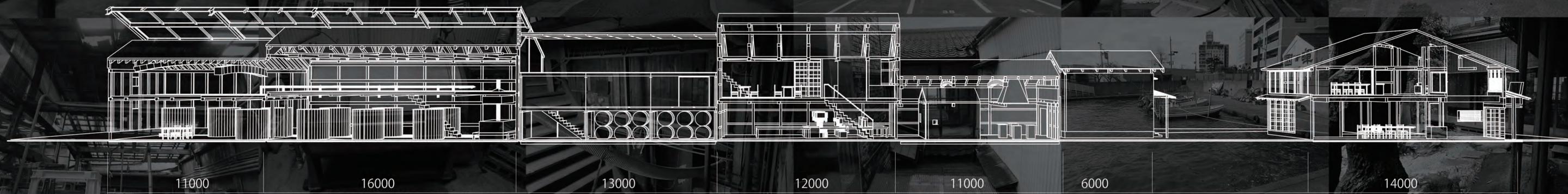
日本酒はその土地の「記憶」である。その土地で丁寧に育った米と水、蔵に住みつく酵母から成り、杜氏による土地ならではの「技」をもって唯一無二の味が造られる。できた酒はまちの神事や祭りで呑み交わされ、地域の記憶として還元されていく。

松江城下町としての痕跡が色濃く残っている「末次商店街」の一面を対象敷地とする。「末次商店街」は近年空き家が増加し、来訪客は減少している。本エリアにおいて人々にとってひととき大きな存在となっているのが「国暉酒蔵」である。日本酒は「国暉」という地域ブランドで愛され、そびえ立つ煙突と「国暉」のファサードは水辺の反射と相まってまちのシンボルとなっている。

過去の記憶を Archive し、これからの生活に繋げる。また、日本酒造りに新たにウイスキー造りのレイヤーを加え、蔵の内部をまちに開くことで、生業と地域の人々の生活を溶け込ませる。

日本酒造り、ウイスキー造り、街の資料館・GA の3つのプログラムから建築を構成し、持続可能なプロジェクトを目指す。さらにこれら全体を Museum として街に開き、地域・観光客との関係を構築する。点在する町家で販売している様々な工芸品を展示することは、「国暉酒蔵」への来訪客にとって商店街を歩ききっかけとなり、「末次本町」の再興につながる。改修後の酒蔵は新たなまちの風景となり、商店街と共に地域の暮らしに溶け込んでいく。

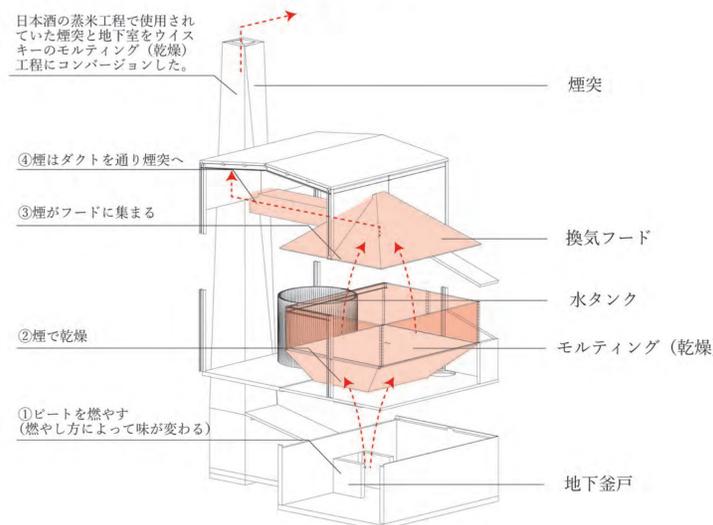
西向き断面図



改修提案 (抜粋) 増築 減築

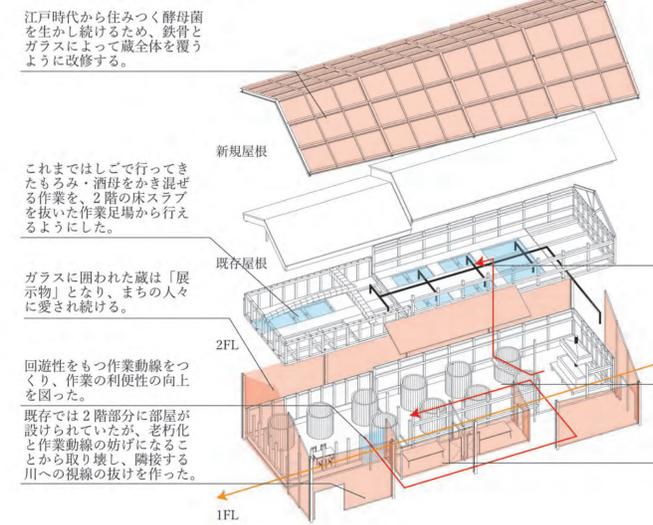
1. 煙突・地下暖炉の再活用

洗米・蒸米小屋、煙突 → モルティング (乾燥)



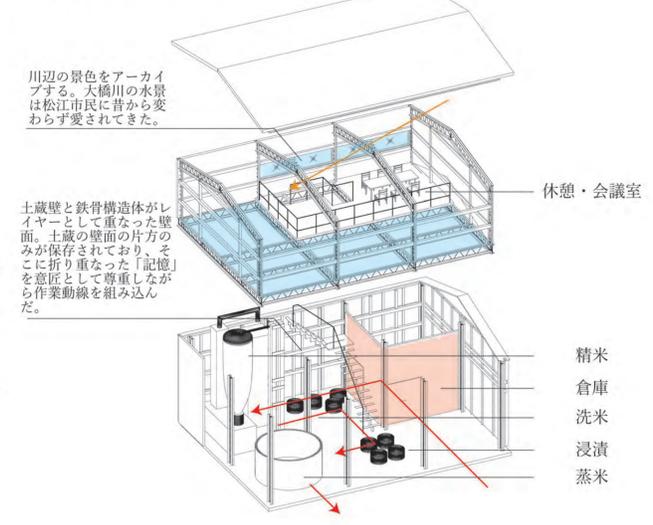
2. 日本酒仕込み蔵の保存

仕込み蔵 → 作業動線整理



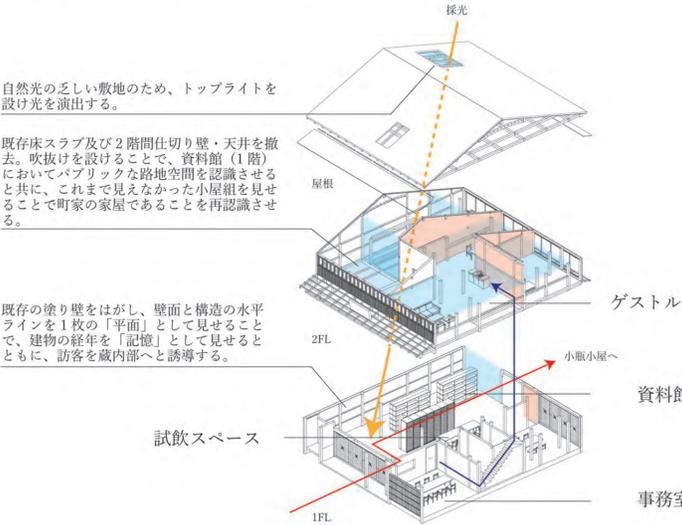
3. 壁面レイヤーの保存

仕込み蔵② → 精米～蒸米



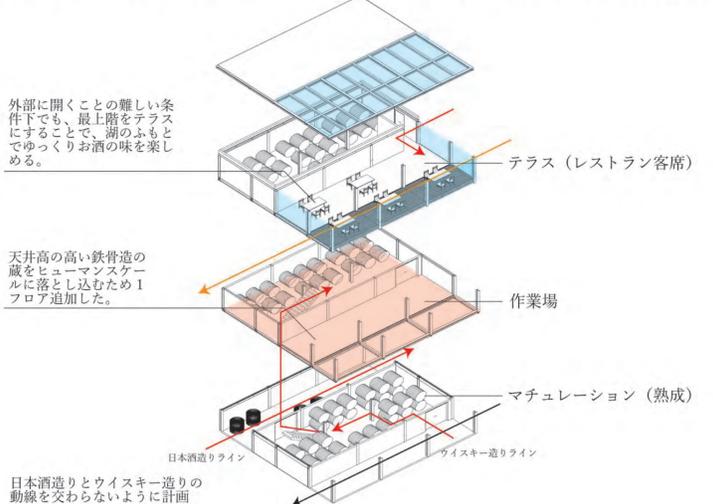
4. 通り土間の再解釈

町家家屋 → 資料館・ゲストルーム・酒販店



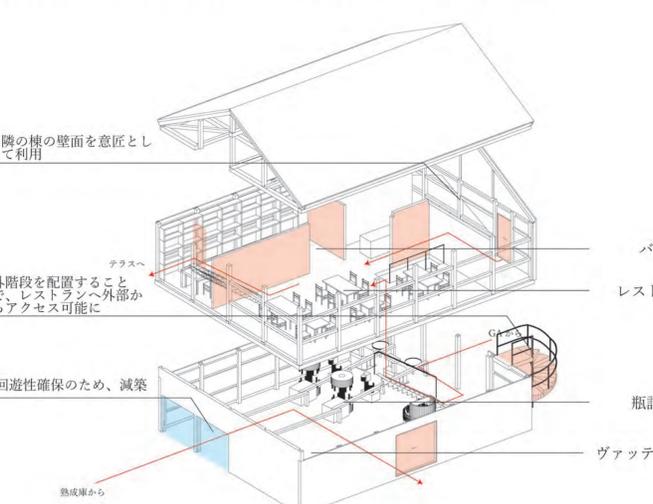
5. 屋上テラスの創出

貯蔵蔵 → マチュレーション (熟成)、火入れ、テラス (レストラン)



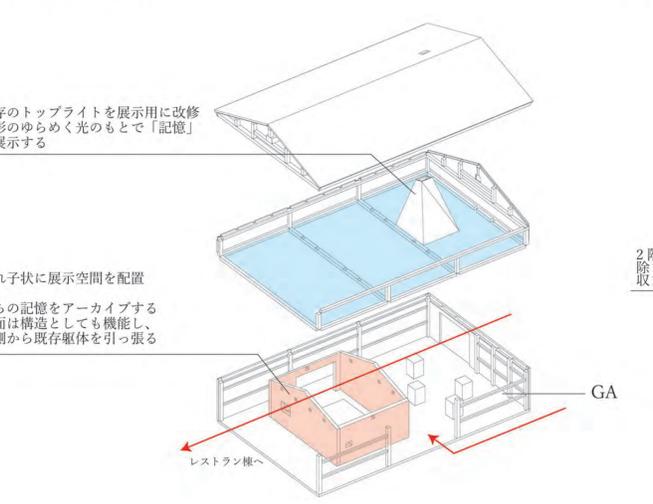
6. 搾りたての日本酒・ウイスキーを味わう

貯蔵蔵 → 日本酒造り・ウイスキー造り・レストランバー



7. まちの記憶をアーカイブ & 展示

貯蔵蔵 → GA



8. ウイスキー製造ラインの挿入

貯蔵蔵 → ウイスキー製造 (製麦～糖化)

